

イーハトーヴの雪

作・井伏銀太郎

二〇一一年三月末 岩手県の港町の小学校の体育館 遺体安置所になっている
一面ブルーシート 棺桶がブロックの上に置かれている 靴が棺桶の前にある
金魚鉢に灰が入つていて線香が立てられている

P 1

(大きな鞄とコート、帽子、マスクした男入つてくる)

(鞄を置いて 合掌して、棺桶の蓋を開けながら)

美雪が・・（中を確認して）・違うな・・・（大きなため息 マスクを下げる）

（お辞儀して）お疲れさん・・お帰えんさい・・寒がつたな、寒がつた、寒がつた
いがつたな、見つけてもらつて（机から金魚鉢を持ってきて棺桶のそばに置く）

（男は棺桶の中の御遺体に話しているように見えるが、自分自身に語りかけている）
ちよつとばっかし、お邪魔すっからね・（椅子を取りに行く）

びつくりした・・急に話しかけられて・・（椅子に座る）

（辺りを見て）今日はさ・・新しい仏さん、他にいねみでだから

少しゆつくり話していいがな？（マスクを取つて、しまいながら）

受付けでね、年格好似でるつて言われだんと・・今度こそ、美雪かつて思つたんだけどな
妹なんですよ・・あの日、いねぐなつてしまつてね

（線香道具出しながら）不思議なもんだな・・誰かを探してゐる時さ

普通は見つかつと、ほつとすんだけど

（手が止まる）何だか、見つかんねえと、ほつとすんだな

（線香の灰の片付けはじめる）

先週からね、全国から棺桶送つてもらえるようになつて、本当、いがつたな

初めはさ・・この体育館の床にね・ただ、仏さん、並べらつて番号だけ付けらつて

物みてえに・・

役所の人たちも、何にもできなかつたから

私ね、最初、ここに、妹探しに来たんだけど、

少しづつお手伝いするようになつてね、葬儀屋だからさ
申し遅れましたが、葬儀屋の鈴木です・・・花巻から来てでね
葬儀屋だから。毎日のように、仏さんと向きあつてるけど

・・こんな場所ねえな・生きてる人より、仏さんの方が多いなんて・・

泥だらけの仏さんも多くてね、せつかく身元が分かつて家族が来てもね
泥だらけの姿見て、ただ、突つ立つてんですよ

だからプールから水汲んで来て、顔綺麗に拭いてやつたら

やつと・・家族だつて分かつて・・初めて、涙、流してたな（灰 片付け終わり）

一休さんの言葉でね

「いま死んだ どこへも行かぬ ここにある たずねはするな ものはいわぬぞ」
つて言うのがあんだけって・・・

「人は、亡ぐなつと、遠くへ行つてしまつて思うけど、そうではないんだって
すぐ近くにいるんだって。」

だがらね・・なんか、まだ・・近くにいるような気がしてや

ちよつとだけね、話しかけてみだんですよ・・普通に、普通にね・・話しがげて・・
生きる時と変わんねえようにさ・・

それが・・・物でなく、人として向き合つ」とじやねえがなつて思つてね・・・
でもな、こうやって、他人様だと、いろいろ話せるんだけど

いや、本当の妹に会えたら・・何、しゃべつたらいいのかな・(合掌 線香 元の場所に)

(棺の脇の故人の資料、持ち物の入ったビニール袋を持って見て)

車の中で見つかったんだ、だからキレイなんだな・・

佐藤敏子さん・・免許証あつて良がつたね・・この写真・・息子さんがな

・・賢一と同じぐれだな・・甥っ子なんだけどね

何でもね・・人間は2回、亡くなるつて話・・聞いた事あるがな

まず、肉体の死があつて、次に・・忘却っていう、死があるんだつてね
皆から忘れらつて、初めて、本当の死がやつて来んだな・・つて事はだよ

(ビニール戻す) 忘れない限りさ、思い出ん中で、ずっと生き続けるつていう事じや

ねえがな・・だからね、・・『家族が見つかんなくてもね・私だけでも、憶えていようつて
ちよつと・・似顔絵描いてもいいがな (手帳出す)

(似顔絵描きながら) 佐藤敏子さん、あの日、あなたは何をしてたんですか?

やっぱり、家族の所、向かつてたんですか?

あの日はね、皆して、一番大事な人の所、向かつてたがらな
美雪もね、賢一、探しに行つてたんですよ

少し・・妹の話していいがな・・妹はね、私が中学生の時の・・冬休みに生まれてね・・
干支が、一回り違うんですよ・・・妹が産まれた日はね、キレイな雪が降つてたもんだから

親父がね、美しい雪、美雪つて名前付けたんですよ、単純でしょ、

あれ、雪だつたがら良かつたけど、もし、アラレが降つてたら

アラレちゃんになつてだよつて、妹笑つてだな

P 4

歌が好きでね、中学校、高校とずっと合唱部に入つてで、コンクールで何回も優勝してね
ここだけの話、少しほつちやりしてたから声響くんだな、ここだけの話ね

・・私ね、妹が初めて、歌つた歌・・覚えてんですよ

♪「あかいめだまの　さそり　ひろげた鶴鳥の翼」

「星めぐりの歌」つて・これ、宮沢賢治さんが作ったんですよ

両親が共稼ぎだつたからさ、ちつちえ頃は、よく、俺が面倒みでだんですよ

「銀河鉄道の夜」の絵本が大好きでね・・・何十回も読んでやつたな・・・

銀河鉄道は亡くなつた人、運ぶ列車だつて言うのにな

そん中で・・ジョバンニがね・「星めぐり」を口笛で吹くつて所があつてさ

それで教えてやつたんです。それが妹が初めて歌つた歌だつたな

親でもないのに良く憶えでるでしょ

親つづうのは、子供が、初めて歌つた歌、覚えてるもんだよね

亡くなつたお袋から聞いたんだけどさ、俺のは・・「おさるのカゴヤ」なんだつて

敏子さんは・・息子さんが、初めて歌つた歌、憶えですか

昔ね、いきなり、お兄ちゃん、人間が発明した物の中で

一番の物は、なーんだつて聞がれでね、何だと思います

歌だつて言うんだな、えつ?歌つてあの歌う歌が

歌つて、誰かが発明したんだよ、だって・・動物は歌わないでしょ

私はね・・・世紀の大発明は・・・リニアモーターカーでねえのか

列車が空中を走るんだからって言つたら

お兄ちゃん夢ないね、考えてみで歌の無い世界つて淋しすぎるでしょ！だって。

♪「エッサ エッサ エッサホイ サツサお猿のかごやだ ホイサツサ」（似顔絵終わり）

P 5

何か・・ノド乾いたな、やつぱり、歌つたからがな、お茶にしますか

インスタントコーヒーだけどね

(鞄から紙コップ、ポット出し、二人分 注いで)

盛岡の火葬場も、やつと動き出したからさ、『家族見つかつた仏さんから

連れでつてもらえるようになつたがら。敏子さんも、早く見つかつといいな

(回りの棺桶を見て ため息) まだ、残つてた・・あの3つ並んでる棺桶には、

家族が納められでんだ。車の中で見つかってさ・・、三人、抱き合つてたんだとあっちのには・・赤ん坊、赤ん坊は・・なんで泣きながら生まれてくんのがな・

1回も笑わねえで、亡くなつたんでねえが・・

P 6 (コーヒー飲みながら 片腕組み)

あの日は・・丁度休みだつたんでね、私・・マシユマロ作つてたんですよ

ホワイトデーのね・・ほら・・妹だけですから、バレンタインにチヨコくれんのはだがら、毎年、二人にね、マシユマロ作つて・・やっぱり手作りは違うがらね

料理だけですから・・私の趣味は。

マシユマロ簡単なんですよ、メレンゲ、ゼラチン、シロップを混ぜるだけ、ね、簡単でしょ
仕上げのシユガーパウダーはね（飲んで）賢一の目の前でね、振りかけてやるんですよ
よろこんでたな・・おんちやん、ほんとの雪みたいだなつて。

ああ、この雪はな、甘くて、暖けんだ、何たつて、イーハトーブの雪だがらな・こんな雪の中、銀河鉄道は走んだぞ・

でね、さつそく持つていこうと思つたら・・地震が来ちゃつてね・・

地震もさ、何も、ホワイトデーの直前に来なくとも、いつちやね

すぐ、妹のところに向かつたんだけ、5時間もかかつてさ

着いたらもう、すっかり、夜になつてたな、

あいつのアパートも・・賢一の幼稚園も、まだ、水ん中でね

(立つて、窓を見ながら、小さく) また、降つてきたな(ポケットに手を入れ)

ずーっと、待つてだ・こんな風に、空見上げてね・・何であんなに星が奇麗だつたんだべな
亡くなつた人の魂が、一つ一つの星なつたような恐ろしいぐれいの・・奇麗な星だつた・・

あんな空なら・・銀河鉄道走つてでも不思議でねえよ

何万つう人達が亡くなつて、美雪も賢一もいねぐなつて

(小さく) 何で俺だけ残つてしまつたのがな

妹の旦那はさ、新日鉄で働いてたがら結婚して、釜石に来てね

・・賢一生まれて・・まあ・・色々あつて・・別れだんですよ

美雪ひとりで、賢一、育でてながら

花巻帰つてこいつて言つたんだけど、こっちで合唱団にも入つたし、友達も出来たから
もう少し頑張つてみるつて・ホームヘルパーの資格取つて、デイケアセンターに
勤めてたんです

(前見て)あの日は、施設のお年寄りを高台の避難所に連れて行つた後に

「これから、幼稚園に、賢一迎えに行つから・・お兄ちゃん・・みぞれ降つてきたよ」つて
電話よどして、その後「賢一と会えたよ」つてメールがきて、それが・最後だつたな
あの時さ、怒鳴りつけででも・・そこ動くなつて言つたら

美雪だけでも・・助かつたんでねえが「津波でんでん」つて言つて

津波が来たら、家族、バラバラに逃げろつてつて言うけど

(下向いて) 子供ほつといて逃げる親はいねえよな

(敏子に) ね、敏子さん

P 8 (コーヒー2杯目 注ぎながら)

・・敏子さんってさ、ああ、宮沢賢治さんの妹と・・同じ名前だね、

「両親は賢治さんのファンすか? イーハトーヴの人だろうからね (飲む)

賢治さんが岩手県を理想郷のイーハトーヴって言ったのは

エスペランスト語から来てんだってね

あとほら、花巻は・・ハームキヤ。盛岡は・・モリーオってね

俺も昔から大ファンで、一番好きなのはね・・「永訣の朝」って言う詩、知ってるかな

ほら、賢治さんの妹さんが・・遠くに行ってしまう、最後の朝にね

「あめゆじゅ とてちてけんじや」って二人が使つてだ茶わんに、みぞれを、

採つてきて下さいつていうんですよ

(腕組み、下見て) その、みぞれつてさ、どんな味だつたんだべ
天上のアイスクリームなんだつて・・でも・・

(顔上げ) アイスクリームはやんだな、しゃつこいがら・・歯にも染みるしな
どうせだつたら・・・マシユマロがいいな。温かくて、柔らかくて・・ (飲む)

(窓見て) 今日も、みぞれ、降つてんな・、もうすぐ四月だつて言うのに

今年は、春来んのがな (飲む)

P 9

妹はね・・笑い上戸でね、いつも笑つてだな・・笑い出すと止まんねんだ

(手帳から、妹の写真出しながら) 親父の葬式の時も笑つてしまつたんですよ
いや、嬉しくて笑つた訳ではなくてね

(焼香の時にね、親戚のおんつあんが、立ち上がつたとたん、足しづれてでね、
お経読んでる、お坊さんに、おびきつてしまつてね

(敏子に) それ見て、妹は、ふきだしてしまつてね

つられて親戚一同笑つてしまつたな

不謹慎だげど・・なんだか・・少しだけ、気持ち、楽になつた氣がしたな(写真に)な
もしかしたら、人間の一番の発明つうのは、笑いでねえが

歌の無い世界も淋しいけど、笑いの無い世界はもっと寂しいがらな

・・今は、何処からも、歌も、笑い声も聞こえないけど、いづが、いづがなー

歌と笑いが(写真に)また、戻つてくつといいな。(写真しまう 手帳しまいながら)

去年の暮にね、盛岡劇場で合同合唱会あるから・賢一連れて、聞きに来てつて言われてね
「喜びの歌」つていうんですか。いやー・・何百人で歌うと迫力あつたな

(鞆を置きながら、止まつて) 何で最後の最後に、あの歌、歌つたのかな

(手をひざの中に、揺れながら) 今日ね、初めて、賢一の幼稚園の近くに、行げだんですよ瓦礫の中に、やつと、道でぎてね、
（揺れ止まつて） 何にもねぐなつてだ・・

風景が変わつたどうか・・・（小さく） 風景ねぐなつてだ

（手、ひざで踏ん張つて） でもこゝは・・イーハトーヴだから・・

イーハトーヴは・・・ドリームランドで・・夢の国で、

そこでは・・どんな悲しみも・・どんな苦しみも・・やがて・・聖く・・輝きだして

田園の・・風と・・光に・・・みちあふれるんだつて・・

（コーヒーしまいながら）

（めんね、話長くなつて、疲れた？ コーヒーも冷めだわな（コーヒー飲みきる）

良かつたら・・マシュマロ、味見してみで

（マシュマロを4個、紙に乗せる 上からシユガーパウダーを雪のように降らせる）

（星めぐりの歌 入る マシュマロを1個口に入れ 食べる 見つめる）

んで、そろそろ帰つからさ・・来週、また来つけど・・そん時は

(立ち上がつて、初めて 敏子に 直接話しかける) ここさ、残つてんなよ・・

(棺桶の蓋を閉めて 合掌 銀河鉄道の音聞こえる 窓を見上げる)

幕